

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

杉の子育英幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然とかかわる「土」

<テーマの設定理由>

日々園庭で遊ぶ中で、砂場遊びとは別に木の下での地面を掘ったり、園庭マットの下をのぞいたり、栽培活動などに興味を持つ姿が見られる。新たな視点で「土」とかかわり親しむことで、発見や気付きを見出させるような活動へ展開する。

2. 活動スケジュール

令和6年8月から令和7年2月まで、月1～2回の活動

合計20回

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

スコップ、カップ、虫眼鏡、水、土、顕微鏡、タブレット、図鑑、モニター
木の周りや日本庭園の整備

活動中の子どもの姿・声・子ども同士や教諭との関わり

- ・園庭に出て様々な土を探したり、公園や家の周りの「土」と思うものを園に持ち寄った。
- ・カップに自由に土を入れる。
- ・「土」か「砂」かを、色、感触、見つけた場所などから考え、意見をかわす姿が見られた。
- ・観察する中で、土の中に虫を発見し、虫眼鏡でじっくり観察したり、何の虫か調べたりした。
- ・観察の過程で土や砂に水を混ぜたことで、大きな違いに気づくことができた。

- ・野菜栽培の際に土作りをした経験が、今回の活動にも生かされていた。
- ・さらに細かく観察したいという探究心から、子ども達から顕微鏡というワードが出てきた。顕微鏡で観察すると、肉眼や虫眼鏡では気づかない粒や色、キラキラしたものが見えて、それをタブレットで調べる事で、新たな発見や子ども達同士教えあう姿が見られた。
- ・「○○みたい」という比喻表現や自分の経験から言葉を考えて伝えようとするなど、子どもらしい楽しい表現方法がたくさんあった。

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

<年少>

- ・保育者が思っていた以上に、土について多くの知識を持っていることに気づいた。
- ・一人が発言することで、周りの子も反応しそれぞれの気づきや考えを共有できた。
- ・保育者の問いかけに対して、一人一人の考え方や新しい着眼点があることに気づいた。

<年中>

- ・すくわくの活動以外でも、土の存在に気づいたり、触れてみる様子から自ら考えて探究していく様子があった。
- ・土を知るために、始めは「土をよく見る」「触ってみる」という発言が主だったが、興味が湧いてくると「水と混ぜるとどうなるか」や「どうしたらよく見えるか」など自分たちで考え活動を先に進めようとする姿が見られた。
- ・都度、活動の幅が広がるような援助や環境設定を保育者同士で話し合っ進められて良かった。

<年長>

- ・一人一人の発言や表情の違いを見つけることができた。
- ・「土」と「砂」の違いにどうしたら子供たちが気付けるかを保育者が考えてしまいがちだが、子どもが主体となった時に、自ら考え、発想が生まれ、友だち同士伝え合う姿を見られることができた。
- ・顕微鏡を使うことが初めての子ども達だったが、色々な場所の土が見てみたい、図鑑でも観察したいといったさらなる探究心と共に、自由な発想や発言が生まれ、充実感や楽しかったという気持ちにつながっているのを感じた。
- ・活動のゴールやそれに対するねらいを決めてしまうのではなく、子どもたちの気づきや発言から活動を発展させていく大切さや、子どもたちの心に寄り添った中での主体性を育む保育の大切さに改めて気づくことができた。

